

平成25(2014)年度 研究拠点形成支援経費 難波・飛鳥・京都の歴史遺産の発掘と活用 成果報告集

著者	西本 昌弘, 積山 洋, 原田 正俊, 米田 文孝, 西光 慎治, 佐藤 健太郎, 藤井 陽輔, 三好 俊
ページ	1-83
発行年	2016-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10112/10259

序 文

本書は、関西大学から平成 25 年度研究拠点形成支援経費を受けて行われた共同研究の成果報告書である。平成 25・26 年度の 2 カ年、難波・飛鳥・京都の 3 地域に焦点を絞って、各地域がもつ歴史遺産の価値を掘り起こし、その歴史的意義を考究することを目的に、難波・飛鳥・京都の 3 研究班に分かれて、調査・研究を行った。

本報告書には、これら 3 研究班の研究成果を収録した。難波班は、森幸安が作成した近世大坂古図を 2 点トレース図化し、これらの古図からうかがえる古代難波の様相について考察し、あわせて発掘調査成果などをもとに、孝徳朝難波京の京域概念を復原した。京都班は、京都市上京区の相国寺について、伽藍の焼亡と復興の過程を跡づけた上で、近世および明治初期の境内図をトレース図化し、古図に描かれた相国寺伽藍の変遷について検討した。また、「嵯峨・伏見に関する参考文献一覧」を掲載した。飛鳥班は、明日香村阪田に所在する都塚古墳の発掘調査を明日香村教育委員会と共同で実施し、その調査成果を概観するとともに、多数の図版を掲載して、都塚古墳のもつ歴史的意義を論じた。

国立公文書館・相国寺・明日香村教育委員会には、資料調査の機会を与えていただき、また、調査を実施する上で便宜をはかっていただいた。厚く御礼申し上げます次第です。

2016 年 3 月

関西大学文学部教授

西本昌弘

例言

1. 本書は、平成 25 年度に採択された関西大学研究拠点形成支援経費による「難波・飛鳥・京都の歴史遺産の発掘と活用（研究代表者西本昌弘）」による調査研究の成果をまとめたものである。
2. 調査研究は、難波班（西本昌弘・積山洋）・飛鳥班（米田文孝・西光慎治）・京都班（原田正俊・藤田勝也）の 3 研究班で実施し、西本昌弘が統括した。また、佐藤健太郎（関西大学文学部非常勤講師）・藤井陽輔（関西大学文学研究科博士課程後期課程）・三好俊（関西大学文学研究科博士課程後期課程）が研究協力者として参画した。
3. 本書の執筆は、基本的に各研究班の担当者・研究協力者が分担して行った（執筆分担は目次に記載）。編集作業は西本・原田の助言のもと、米田・藤井が担当した。
4. 調査研究の実施および文献目録の作成にあたっては、関係機関・関係者各位に多大なご協力、ご援助を賜った。また、成果のとりまとめに至るまで、多くの方々からご助言、ご教示を賜った。深謝申し上げます。

目次

序文	西本昌弘
例言	
第 1 部 難波班の報告	
森幸安「摂州大坂旧地図」・「大坂分町地図」の利用について	佐藤健太郎 1
近世大坂地図からみた古代の難波	西本昌弘 13
初期難波京の造営理念をめぐって	積山 洋 15
第 2 部 京都班の報告	
相国寺の伽藍・境内の変遷と火災	原田正俊 23
近世・近代相国寺境内絵図について	三好 俊 27
嵯峨・伏見に関する参考文献一覧	原田正俊・三好 俊 35
第 3 部 飛鳥班の報告	
都塚古墳第 2・3 次発掘調査の実施とその成果概要	
	米田文孝・西光慎治・藤井陽輔 51